

## 1. 報告タイトル

インドネシアにおける新たな小規模金融  
—イスラーム銀行方式による小規模金融組織の発展—

## 2. 研究の背景

現在、中東諸国のオイル・マネーの増大を背景に利子の獲得を禁止したイスラーム金融が世界的に広まりを見せており、それはイスラーム教徒の人口が世界最大であるインドネシアにおいても例外ではない。インドネシアのイスラーム金融機関は イスラーム普通銀行 (Bank Umum) 庶民信用金庫 (BPR: Bank Perkreditan Rakyat) BMT (Baitul Mal wat Tamwil) と3つのレベルに分類することができる。この中で、中小零細事業者向けに小額の融資をする役割を担っている金融機関が BMT である。BMT は、銀行法による規制を受けていない、いわゆるノン・バンクである。1990 年台半ばに最初の BMT が誕生して以降、1997 年の経済危機を契機としてその数を急速に伸ばし、現在では 3000 以上の BMT があるとされている。

## 3. 実施した研究内容と考察

本研究では、BMT の現在までの発展の要因と小規模金融の担い手のとしての可能性について検討する。検討に際しては、主に BMT または顧客が負担する取引費用について主に着目し、金融機関としての利便性や組織の持続性について考察した。主な考察の内容は以下の通り。

- ・ 利子のように明確な市場のシグナルが存在しない。よって顧客が金融取引においてどれだけの負担をするかは銀行との交渉による。これは顧客にとっては取引費用の負担増となる。
- ・ BMT において最も使われている金融取引は、ムラバハと呼ばれる信用販売であるが、このような取引は資金の用途の自由度 (転嫁流動性) が制限される。
- ・ 事業者の利益を分益するシステムは、事業者が BMT への利益の報告を誤魔化す可能性があるが、これに対して有効な対策がない。また、対策を施してもそれは取引費用の増大となる。

以上より、BMT の発展はイスラーム金融の有利性に起因したものではなく、今後の発展可能性については課題があると思われる。現地調査や既存文献の整理から BMT の発展は、現在のところ様々なイスラーム組織による資金援助・スタッフのトレーニングといったサポートに支えられていることや、既存の金融機関が、BMT の対象が対象とする中小零細事業者の資金需要を満たしていないことが要因としてあると考えられる。

## 4. 主な引用文献

北田恵子「インドネシアにおけるシャリーア金融機関の背景」『国際開発研究フォーラム』  
27, 2004.

Sundarajan, V. and Errico, Luca. *Islamic Financial Institutions and Products in the Global Financial System: Key Issues in Risk Management and Challenges Ahead*. International Monetary Fund, 2002.